

十七文字の抒情詩

暑い暑いと言っていたのはついこの間…それがもう北の町では初雪を見る季節です。
秋から冬へのこの時期はあっという間です。
それにしても、日本に生まれて良かった…と実感するこの季節の移り変わりの美しさ。
クリスマスもお正月ももうすぐ…また慌しい12月がやってきます。
うさおさん、今回もたくさん投句ありがとうございました。

絢色衣替えする稲の海

風わたり絢模様の稲の海

二句とも稲田の風景が見える良い句です。
一句目の「衣替え」は更衣（ころもがえ）という夏の季語と重なるので出来れば省いた方が良いでしょう。

わたり…を漢字にして「渡る」といったん言い切った方が重みのある広がりのある句になると思いませんか？

*風渡る絢模様の稲の波

田の水も枯れて実りの秋が来て

この句も秋の様子が良くあらわされていますね。
こちらも最後を「秋きたる」と言い切った方がぐっとしまる感じがします。

*田の水も潤れて実りの秋来る

軒先の稲束揺れて一人かな

すごく良いです。下五の一人かな・・・がいいですね～
ひとりかな、独りかな、ひとりにもいろいろな書き方があるけれど、この場合は一人がびったりかも。
今回の特選句です～

青柿も落ちて潰れて時は秋

*青柿や落ちて潰れて季も変わり
「柿の実の青き硬さで落ちにけり」(ゆうこバージョン)





気臥せりな秋雨ひたたる軒端先

気臥せりな…って気が臥せるって事ですよね。

解り易い言葉にする事も俳句では必要。憂鬱では意味が違うかな～？

*秋雨の憂鬱滴る軒端先



青柿を物欲しそうなからす鳴き

青柿っていうと実は夏の季語になります。ちなみに林檎も「林檎」は秋
「青林檎」は夏 みかんも「蜜柑」は冬「青蜜柑」は秋…ややこしいです～

*青柿や物欲しそうなからす鳴き

「青柿や熟すを待てず鴉鳴く」(ゆうこバージョン)



水引と萩の繚乱踏み分けて

秋の草花が咲き乱れているのですね。水引の花と萩のどちらかに絞ってもいいかも・・・

*分け入れば萩水引の花繚乱

「踏み入れば百花繚乱萩零る」(ゆうこバージョン)



薄野に子供らの声遠くから

少しだけ順序を入れ替えてみましょう。

*遠くより子らの声聞く薄原



鬱蒼の薄の群れに囲まれて

こちらは最後を囲まれると止めた方がしまります。

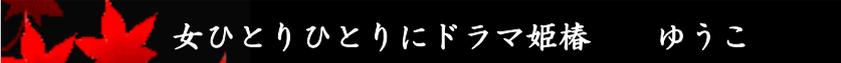
*鬱蒼の薄の群れに囲まるる

いろんな所へ出掛けられるうさおさんは、何気ないものを
うまく俳句にされています。難しい言葉ではなく誰にでも
わかる言葉でさらりと詠む。これが一番だと思います。



ジャケットの冬色あした逢へる人

(省吾に逢える前夜…)



女ひとりひとりにドラマ姫椿 ゆうこ



次回も投句お待ちしております。